

「年金もらうの楽しみだなあ。みんなも将来ちゃんと税金納めてね。」
クラスで税について話し合いをした時に社会の先生が言いました。するとみんなは、「自分で稼いだお金だから、全部自分で使いたい。」「知らない・会ったこともない人の年金にされるのはいや。」と税金を納めることにすごく消極的でした。確かに私も、お金があつたら自分のために使いたいと思うし、どうせ年金になるんだつたら、知らない人にではなく、自分のおじいちゃん、おばあちゃんにあげたいとは思いますが。でも、私の意見は少し違います。私は、税金を納めることと学校の清掃分担の仕組みは同じだと思えます。

中学二年生の時、私の清掃担当場所は、グラウンドのそばのスタンドでした。そこは、一部の部活生しか使わないような場所で、私も清掃担当になるまであまり行ったことがありませんでした。自分は使わない場所だし、教室からも離れていて、正直最初はスタンドの清掃がすごく嫌でした。でも、その考えは間違いでした。なぜなら、私はとても大切なことを見落としてしまっていたからです。それは、清掃をしているのは自分だけではないということです。私が清掃したスタンドを使っている人が、もしかしたら私の机をよせてくれているかもしれない、くつばこを掃除してくれているかもしれない。考えたら分かる簡単なことなのに気づけませんでした。

学校の清掃は”学校をキレイに保つ”という目標があつて、その目標のために生徒全員で分担して清掃します。それと同じように国も”国民全員が豊かで安心した暮らしを送る”という目標のために、国民全員が税金を納めています。それなのに、税金を納めたくないという人は、スタンドの清掃が嫌だった私と同じです。とても大切なことを忘れてしまっています。学校でもらう教科書や病院に行った時の医療費など、私達は今までたくさんの税金に支えられてきました。もしかしたら、税金を納めてくれた人は、スタンド清掃が嫌だった私のように、嫌々ながらやったかもしれません。でも、その人が税金を納めてくれて、助かったし、とても感謝しています。

次は私が税金を納める番です。もしかしたら、私が納めた税金で誰かの命を救うことができるかもしれない。もしかしたら、私の教科書代や医療費を払ってくれた人の役に立てるかもしれない。もしかしたら、日本のどこかで、私のように感謝してくれる子供がいるかもしれない。そう考えると、ロマンがあつてすごくいいなと思えました。考え方一つで税金に対するイメージがだいぶ変わります。周りの意見に流されるのではなく、みんなが自分自身で考えて本当に大切なものに気づいたら、積極的に税金を納める人も増えて、より良い日本になってくれると私は思います。